

いじめをしない・絶対に許さない仲間になろう!!

~I believe myselfから We believe 緑中の仲間へ~

緑ヶ丘中学校 生徒会

【特集】

いじめ問題相談員が 子どもたちのそばにいます

いじめは、ない方がいい。きっと、皆がそう思っているでしょう。でも、現実にはいじめはあります。

市内のある中学校で取ったアンケートでは、自分がいじめられていると感じている生徒が何人もいることがわかりました。

今は深刻ないじめでなくても、エスカレートするかもしれない。周囲にはちょっとしたケンカぐらいに見えていても、本人はともつらいのかもしれない。当事者の声を聞かなければ、その傷の深さがわからないのがいじめです。

いじめがあるのなら、すぐに家族や学校に相談してください。家族にも先生にも言えないときは、いじめ問題相談員が、子どもたちのすぐそばにいます。

「いじめ」を、中学校の
全校集会でとりあげました

緑ヶ丘中学校では、毎月1回、生徒会が主催する全校集会を開いています。9月21日(金)の全校集会では、市から委嘱された「いじめ問題相談員」5人の紹介と、生徒による「いじめゼロ宣言」が行われました。

集会の中で、生徒会執行部の役員4人が、いじめについての考えを発表しました。「周りでいじめが起こっているとわかりながら、勇気を出せず、一歩を踏み出さなかった。自分にできることをしたい」、「知らないうちにいじめに加わってしまったことがあった。二度とあやまちを繰り返したくない」、「いじめをしたことも、されたこともある。自分がいじめられたとき、いじめたことを思い出して後悔した」などと述べました。

生徒からの声、「いじめゼロ宣言」

そして、生徒会長の古井勝也さんが、「いじめゼロ宣言」として、『いじめをしない・絶対に許さない仲間になろう!!』と、力強くスローガンを読み上げました。

この日、全校集会は体育館で行われ、生徒たちは背筋を伸ばして座り、私語などで会場がざわつくこともなく、皆が生徒会の発表や、相談員の話をしっかり聴いていました。

◀ 緑ヶ丘中学校の全校集会の様子

【いじめ問題相談員とは？】
 市内にあるすべての市立小・中学校で、3～5人のいじめ問題相談員が子どもや保護者からの相談を受け、学校とともに子どもたちの成長を見守ろうという取り組みです。
 市では、学校評議員や元教員、青少年団体の指導者など133人を、いじめ問題相談員として委嘱しました。



いじめを許さないというメッセージを発信することが、抑止力にも

緑ヶ丘中学校の加納圭子校長は、いじめ問題相談員について、「いじめが起きたときに相談できるという安心感があることに加え、そうした方の存在は、いじめの抑止力にもなる」と考えています。

全校集会のあと、5人のいじめ問題相談員に対し、校長は「皆がいじめについて注目し、いじめを許さないという思いを共有していることにより、いじめの子が減ることや、また万がいじめが起こったときにも、本人や周囲の子ども、家族が相談しやすくなることなどを期待しています。」と話しました。

また、味岡一典教育長は、「学校にはいじめはあるものだということを前提にしたい」と考えています。
 「いじめがない学校」がよいと考えるのではなく、いじめはあるという前提に立って、いじめを発見してそれ



▶ 加納緑ヶ丘中学校校長

にきつちりと取り組める学校がよいのだという考え方をしたい。
 児童、生徒の立場なら、誰かがいじめられていたら、どうしたのと聞いてあげられる子どもになってほしい。自分がいじめられたら、誰かに相談してほしい。教師の立場であれば、いじめを見逃さずに発見してほしいし、発見したら一人で解決しようとせず学校全体で取り組むという発想を持つてほしい。いじめ問題相談員さんには、相談を受けたらじっくりと話を聞いて、必ず解決するからと話して安心感を与えてほしいと伝えてあります。」(味岡教育長)

いじめ問題相談員の取り組みは、始まったばかりです。家庭と学校、そして地域が連携して、子どもの成長を見守っていききたいものです。

**子どもたちの
 思いに寄り添ってほしい
 いじめ問題相談員**

其道 嘉代子さん

(元友生小学校校長・元教育研究センター所長)

相談員を引き受けてから、2件の相談がありました。相談をしてくれたのは第三者でしたが、困っている子どもがいることを校長に伝え、校長、担任ともに対応してくれました。いじめの問題について話すとき、「いじめられている人にもいじめられる理由がある」という言い方をする



人がいますが、いじめてもいい理由などありません。どんな人も楽しく幸せに暮らす権利があり、その人らしいままでいいのです。

これから相談を受けることがあったら、「苦しかったんやね」と子どももの思いに寄り添っていきたいと思います。子どもたちが「学校が好き」と言える環境づくりの一助になりたくて願っています。



INTERVIEW

いじめ問題相談員の皆さんに お話をうかがいました

緑ヶ丘中学校の5人のいじめ問題相談員の皆さんに、全校集会のあとお話をうかがいました。5人の皆さんは、子どもを取り巻く環境について、また、いじめが起こったときの配慮についてなど、さまざまな思いを聞かせてくださいました。

相談員は、地域や子どもと関わってきた人たちです

——自己紹介を兼ねて、地域の子どもたちとの関わりを教えてください。

塚本さん…昭和55年からスポーツ少年団の中で、空手道を指導してきました。武道を通じて、子どもたちの体と心を健全に育成することをめざしています。これまで無事に過ごしてこられたお礼の意味も込めて、いじめ問題相談員としても協力したいと思っています。

橋本さん…昨年度は、緑ヶ丘中学校のPTA会長を務めましたので、身近に子どもたちと接することができ、子どもたちからもよく話しかけてくれます。中学生と小学生の子どもがおり、PTAでは今年は顧問をさせていただきます。

森川さん…人権擁護員として、小・中



▶ 塚本さん

学校の子どもたちとの悩み相談「OSミニレター」をやり取りしたり、子ども人権110番で電話相談を受けるなどしています。教員として38年勤めましたので、学校に関わらせてもらえるのをつれしく思っています。

平井さん…中学校で長く教員をしていましたので、ずっと人権教育に関わってきました。現在は民生児童委員として高齢者などから相談を受けることが多くなっています。相談員として、地域の中で子どもたちともこれまで以上に関わり、学校へのいい橋渡し役ができるようにと思っています。

森下さん…保護司会の取り組みである、地域の子どもたちの支援を行うためのBBS (Big Brothers and Sisters Movementの略) で、サマースクワールを開催するなどの活動をしています。また障がい者や障がい児についても関心を持ってさまざまな取り組みに関与してきました。

声をあげるのは勇気がいります。でも一歩踏み出して

——いじめ問題相談員の取り組みが始まりました。相談を受けるに当たって、どんな思いをお持ちでしょうか。

森下さん…「さあ、相談しなさい」といわれてもなかなか相談できるもので

◀ 森川さん



はないでしょうから、バスを待つところへ顔を出す、こちらから声をかけるなどということからつながりを作って、相談を持ちかけてくれるのはそれからかなと思っています。

森川さん…私もそう思います。相談といっても、知らない人には相談しにくいものですから、まずはあいさつから始めたいです。

平井さん…登校時の見守り活動などを通じて顔を知ってもらって、話しやすい関係になっておきたいですね。

塚本さん…私は、空手教室では、どの子にも必ず声をかけることを心がけています。相談員としては、いじめる子からも、いじめられる子からも話を聞きたいと思っています。遠慮せずにごんどん話してほしいですね。

森下さん…悩みができたときに、学校とも違う、親とも違う、そういう人が



《緑ヶ丘中学校のいじめ問題相談員》

- 塚本 千尋さん (緑ヶ丘中学校学校評議員・伊賀市スポーツ少年団副本部長)
- 橋本 秀久さん (緑ヶ丘中学校 PTA 顧問)
- 森川 孝子さん (緑ヶ丘中学校学校評価委員・人権擁護委員)
- 平井 つゆ子さん (緑ヶ丘中学校学校評価委員・民生児童委員)
- 森下 政實さん (民生児童委員・人権擁護委員)

いるんだと安心できることがまずは大切だと思っています。

平井さん：子どもにもプライドがありますから、いじめられていると相談するのはとても勇気がいることです。相談することで、もっといじめられるのではないかという心配もあるでしょう。

森川さん：だから、こちらからも気づいてあげたい。周囲の誰かが気づいてあげられたらいいですね。

家族や先生に言えないときの、いじめ問題相談員です

—— 小学校、中学校に通う子どもたちや、保護者のみなさんに、なにかメッセージはありますか。

橋本さん：子どもの様子が違うなど思ったら、家庭で話をよく聞いてあげてほしい。まずは親だと思えます。親に言えない、先生にも言えない、そのときには相談員がいます。



▶ 平井さん

◀ 森下さん



3者が同じ思いを持って、問題にあたらたら子どもは安心して相談もできるし、相談できる人が周囲にいるという安心感を持つことができるのだと思います。

森川さん：教室でいじめが起こったとき、いじめられている人の立場になれる人が一人いるのと、一人もいないのとではまったく違います。勇気を出して、その一人になってほしい。

そして、その勇気を出しやすい環境を作るのも、私たち大人の役目だと思っています。

平井さん：誰でも、困っていることを、すぐに、困っているとは言えないものです。こちらも気づいてあげられるように見守って、声をかけて、だんだんに話してもらえようようにしておきたいです。

問題が起こって、それが解決したと思っても、根強く残っていることもありますから、じっくりと関わっていき

たらと思っています。どうぞ安心して相談していただけたらうれしいです。

塚本さん：親御さんは、どうか子どもの話をよく聞いてあげてほしい。子どもと関われるのはほんの短い期間しかない。仕事が忙しいとか、家事があるというような事情はあるでしょうが、とにかく子どもの話を聞いてほしいというのが私の思いです。

それから、いじめ問題相談員という私たちの存在が忘れられてしまうことがないように、子どものいる場に顔を出して、声をかけ続けていきたいです。

森川さん：自分がいじめられたり、また、いじめを見たり、いじめに気づいたら、自分ひとりで悩まないで、勇気を出して、親や先生、周りの大人たちに相談してほしいです。



▶ 橋本さん

【問い合わせ】 学校教育課
TEL 47・12883 FAX 47・12990